

ほんやまじねんじょ さらなる品質を追求

山翠園藤田製茶4代目
藤田 匠さん 静岡市

【静岡支局】「農閑期の雇用方向上や耕作放棄地解消のために『ほんやまじねんじょ』を栽培している」と話すのは、山翠園藤田製茶4代目の藤田匠さん(37)。静岡市葵区新間で13年前に家業を継ぎ、茶4・8畝とシネンシヨ1・2畝、トウモロコシ30畝を栽培している。

藤田製茶でシネンシヨの栽培を始めたのは約30年前。安倍川と藪科川流域の水はけの良い山間地で、静岡県の茶産地で最も古い歴史を持つ「本山茶」の栽培茶の販売を営んできた。しかし、高齢化と後継者不足に伴い、安定した収入確保につながる新たな作物の栽培を検討。試行の結果

測定値を基に給水量調整



収穫したほんやまじねんじょを手にとる藤田さん



「Bini」筒筒を使うことで真つすぐに育ったほんやまじねんじょ

果、茶と同様、水はけの良い環境に適したシネンシヨにたどり着いた。仲間の農家十数軒と共に立ち上げた研究会で栽培に取り組み、現在は従業員数人と作付面積を少しずつ広げている。

ほんやまじねんじょは少ない凹凸で白く、風味豊かで粘りが強いのが特徴。あくが強くならないよう、養分の少ない土を入れた「Bini」筒の中ですぐ育つよう栽培する。

「2015年から3年間、毎年失敗の連続。水をやり過ぎたり、逆に減らし

過ぎたりして、思い通りの大きさが形に育たず、秀品率が3割を切ったこともある」。工学部出身の藤田さんは、これまでの反省をもとに大学時代に培った論理的な思考を生かし、センサ

収入保険加入で助かった

20年から加入する収入保険についても、現状と今後の営農計画を照らし合わせながら計画的に進めていた。加入初年は保険料の少なかつたため、つなぎ資金を活用。「何とか借入金を抑えることができた。収入保険に加入していたおかげで助かった」と振り返る。

現在は年間約3万本を安定生産できるようになり、20年には、県が農林漁業の経営発展に先進的な取り組みを行う団体を表彰する「ふじのくに未来をひらく農林漁業奨励賞」を受賞している。「昨年の台風のように、いつ何が起きるか分からない。見通しを立てて経営しているが、思い通りにいかないことも多い」と藤田さん。「収入保険も活用しながら、高品質で安定した生産を追求し、皆さんにおいしいほんやまじねんじょを味わってほしい」と笑顔を見せる。(小平)